

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300447		
法人名	特定非営利活動法人しまばら		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	長崎県島原市江里町乙2262-2		
自己評価作成日	令和 5年 12月 1日	評価結果市町村受理日	令和6年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 6年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外庭は自然豊かで季節の花々に囲まれており、季節の行事や活動を通じて、天気が良い日には、ドライブや外出などの個別ケアも行っています。
また、介護ロボットの導入により利用者様、職員の負担軽減、効率化を図ることにより利用者様との関わる時間を多く持ち、各ユニットごとに利用者様お一人お一人の個性に合わせたケアと、くつろげる空間で安心した生活の場を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は周辺を自然に囲まれた場所に位置する。春は庭にテーブルを出し利用者は桜を見ながら食事や、鯉の餌やりができる等、空気が綺麗な環境のもと気分転換を図っている。管理者は利用者あつての事業所であると思いが強く、職員にも伝えている。職員は笑顔で挨拶を心掛け寄り添い傾聴しており、管理者の思いが職員に浸透していることが確認できる。コロナ禍以降LINEで日常の様子を伝える他、面会の予約や緊急時の連絡等に活用し家族と信頼関係を築いている。外国籍職員も多数在籍し、個別面談や研修が充実しており、言葉や文化の違いは他の職員でフォローする等仕組みがある。法人全体でIT化に取組み業務の効率化で職員の負担軽減や情報共有の円滑化に繋げ、時間を利用者支援へ向けている。利用者は、将棋やカラオケ、手紙を書く等、入居前の生活を継続しており、穏やかな様子から理念の中の家庭的な暮らしが見える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を管理者、職員は共有し、地域と交流しながら住み慣れた地域でくらし続けられるように取り組んでいる。	年間目標 “前進全励”“行動は人生を変える”は、職員一人ひとりのスキルアップと利用者へ感謝の気持ちを忘れず業務にあたることを表している。管理者は職員と年2回個別面談し個人目標を振り返っている。職員は笑顔で挨拶を基本として利用者の言葉を傾聴し、安心して生活できるよう理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスも5類となり、徐々に地域との関りも増えている。地域の行事見学や参加をしている。福祉体験学習や実習も受け入れていく。	町内会に加入し、市民清掃に職員が参加する他、、回覧板で事業所の情報を得ている。住職と有志による音楽コンサートが定期的にあったり、小学校の卒業祝いに、利用者と職員合作の記念品を贈る等、交流している。今後は、小学生との交流や実習生の受入れ、地域行事への参加を増やす予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事を見学や参加をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組みや、利用者の日常の様子等を報告しており、意見をサービス向上に活かしている。議事録は、玄関前のタブレットから閲覧できるようにしている。	対面での運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。行政や民生委員、家族代表、時には利用者も参加している。身体拘束廃止や防災への取組、利用者状況や行事報告、利用者の日常の様子を写真付きの議事録として、家族全員へ送付している。家族の参加に関し行政から意見を心得ており、運営に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新手続きや、必要書類の提出を行っている。行政担当者に運営推進会議にも参加して頂き、意見の交換を行っている。	介護保険の更新手続きや事故報告等は、管理者が行政窓口に向かっている。事業所の現状報告や運営上不明な点を尋ねたり、BCP作成に関し助言を得る等、行政と協力関係を築くよう取組んでいる。年1回の担当課の訪問や後見制度利用者には、毎月担当者の訪問がある。行政が案内する研修には、リモートで参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、自由に出入りが出来るようにしている。また、身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束に関しての研修や勉強会を行い、全職員が理解したうえで取り組んでいる。	管理者が身体拘束廃止委員となり、毎月事業所で委員会を開き、法人の会議で報告している。職員は介護ソフトで自主学習後に問題集を解き、年2回の研修、勉強会で理解を深めている。管理者は職員の口調や声のトーン等、気になる時は注意している。帰宅願望がある利用者には、一緒に散歩する等、気分転換を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の勉強会や研修会に参加している。また、虐待防止委員会を設置し、職員への意識づけ、職員間の声かけや利用者の観察を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の勉強会や研修会など学ぶ機会を設けている。必要性に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、質問なども受けている。家族の理解や納得された後に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時又は希望者にはラインで近況報告などを行っている。また、玄関にiPadを設置し、意見箱として活用している。必要時に話し合いの場を設けている。介護ミーティングにて話し合い、解決策を見出している。	事業所でFacebookを開設し、日常の様子を発信している。家族への連絡は電話の他に、LINEを利用することが多く、コロナ禍での面会予約にも活用している。外国籍の職員への接遇の指導もきめ細かく行っており、職員は、家族の来訪時には、温かく迎えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談やスタッフミーティング、介護ミーティングなどを通じて意見を聞く場を設けている。年に2回自己評価時に面談を行っている。	毎週の介護ミーティングや、2ユニット合同のスタッフミーティング、法人全体の会議と職員が集まる機会を多く設けている。管理者は、月に1回本部に集まって情報を交換している。また、毎週代表者が訪れ、職員に気軽に声を掛けている。法人では、家賃補助やジムの整備等、働きやすい職場環境整備を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価をもとに個人面談の実施や法人内外の勉強会にて各自向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修動画等で職員に介護技術を提供し技術向上を行っている。研修会への受講は、各自の力量に応じて進めている。受講の際には勤務体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原市GH連絡協議会やリハビリネットワークなどのWEBでの研修や勉強会に参加し交流の場を設けたり、最新の情報収集を得ながらレベルアップを図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談の時から、本人と定期的に面談し 困りごとや不安等を傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談の時から、家族と面談し 困りごとや不安、要望等を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとっての最善の方向を見つけ支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や食事準備や後片付け等昔ながらの方法を教わりながら、無理のない程度で一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も面会時に家族と情報共有を行い、関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、外出はご家族からの申し出時に対応している。また、ドライブや友人の面会も自由である。保証人以外からの外出、外泊の要望については保証人への許可を取り支援している。	携帯電話を使用する利用者や個人で新聞講読する人がいる。また、趣味の菜園作りや将棋が続いている人もいる。知人の訪問もあっている。事業所は、支援には生活歴の把握が重要であると考えており、外国籍の職員には、読み上げて伝えている。新たに知り得た事例は、フェイスシートに書き加え、半年に1度更新している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動などを通じて利用者間のコミュニケーションが取れるよう支援している。円滑なコミュニケーションの為に、職員が介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所されても面会や電話連絡で、今後の方向性などについて家族や医療関係者とも面談を行い、継続的な関係を保つよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションをとりながら、本人の希望や要望などをくみ取り、個々に合った生活ができるよう検討している。	難聴の利用者には、耳元に話しかけている。特に、発語困難な利用者の体調確認は丁寧にを行うよう配慮している。その日に着用する衣服は本人が選ぶことを基本とし、茶やコーヒーの好みも夫々聞き取っている。職員は、傾聴の姿勢を大切に、生まれた場所に行きたいという気持ちを聞き取り、実際に訪れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常のコミュニケーションの中でその人らしさを考え、家族より聞き取りして、現在に至るまでの生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日常の生活の様子観察にて総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を十分取り入れている。また、全職員がいつでも閲覧できるよう介護計画をファイリングし、期間終了前には介護ミーティングなどで見直しを行っている。	入居前の情報提供書を参考に本人・家族の希望を聞き、暫定プランを作成し介護計画へ移行している。モニタリングやカンファレンスで、課題抽出し見直しを行っている。本人の意見を反映した毎日の清拭等、記録から確認できる。介護計画は本人・家族に了承を得て実践している。ただし、本人・家族の意見に変化が見られない。	利用者の状況に合わせ、本人が本人らしく暮らすための希望や意向を本人・家族から汲み取る工夫と、計画に連動する取組に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録日誌や申し送りなどを通じて情報の共有を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性を活かした支援は状況に応じ柔軟に支援するよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小中学生との、交流会や実習の受け入れをしている。行事やドライブで住み慣れた地域を巡り楽しみがもてる支援している。避難訓練等の行事に警察や消防等の協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も本人のかかりつけ医を継続し、受診時、職員付き添い行い、医療機関との連携を図っている。	入居前のかかりつけ医を継続している。皮膚科・歯科は往診があり、他科を含め、基本的に職員が受診を支援しており、家族を伴うこともある。受診結果は家族へ連絡し、LINEで職員間で共有を図っている。週1回の訪問看護師は、利用者の体調管理と主治医との連携体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護職員に利用者の体調面等の相談を行い適切な指示を仰ぎ、早期の対応や受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、随時面会し医療関係者との情報交換や相談などを行い連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や本人、家族、関係者との話し合いのうえ、方向性を検討している。	契約時に、看取り指針をもとに、事業所では医療行為を伴う看取りは行わないこと、看取り時は家族の協力が必要であることの説明を行い、同意を得ている。体調変化時、主治医から家族に十分な説明を行い、思いに沿った支援に努めている。事業所は看取り支援の事例はなく、病状悪化の為、医療機関への搬送となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを周知し、緊急時の対応などの勉強会も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の総合訓練の実施や毎月のスタッフミーティングで年間の計画に沿って災害に対しての意識を高めている。	年2回日中想定自主火災訓練の内、1回は併設法人施設合同で実施している。毎月、消防計画書に沿った勉強会を実施し、全職員で意識を高め取り組んでいる。職員が消防団に所属し、連携がある他、備蓄や持出品、自家発電機を整備している。ただし、夜間想定訓練がなく、自然災害は、座学のみである。	職員が少ない夜間の災害に備え、利用者、職員の身の安全を守る為にも、夜間想定での訓練実施が望まれる。また、自然災害について座学で学んだ知識を行動に活かす訓練実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の気持ちを持って接するよう心がけている。また、プライバシーや守秘義務は守るよう徹底している。	利用者の呼び方は、苗字にさん付けを基本としており、支援は声を掛けてから行うことを心掛けている。職員は、採用時に守秘義務の誓約書を提出している他、職員個人の携帯の持ち込みは禁止している。また、利用者の書類は、鍵付きの棚に保管している他、Facebook等の写真の使用については、同意を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が難しい方でも、生活の中での思いや希望などを理解し、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を一番に考え、本人の希望に沿った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設には定期的に美容院よりカットや顔そりに来ているが、地域の行きつけの美容院に行く人もいる。またイベントや外出時、希望の方にはお化粧品などを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど、出来る範囲で職員と一緒にやっている。また、食事の際には職員も一緒に食卓に着き、会話をしながら楽しく食事が出来る環境を作っている。	食事は、配食業者を利用し、主食は事業所で炊き、きざみ食、とろみ食にも対応している。職員も同じ物を食べ、月に1回給食委員会が出た意見を業者へ伝えている。春は、裏庭で桜を見ながらの食事や夏のソーメン流し、やきいも作りと季節感を大切にしていることが窺える。今年度は、利用者からの要望で外食も再開している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事を食べる事で、状態観察を行っている。また、食事以外にも水分補給や夜間の水分の提供なども行っている。水分摂取が困難な利用者には、お茶ゼリー等を提供し工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。義歯は毎日洗浄剤につけている。歯科医とも連携し口腔ケアが困難な利用者様には定期的に洗浄に来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレの声掛けを行い、随時、排泄の状況を確認し、自立に向けた支援をおこなっている。	昼間は、トイレでの排泄を基本としている。各部屋にトイレと洗面所を配しており、プライバシーの確保ができています。パッド類は、居室でも目につかないよう保管を行っている。職員間でパッドのサイズを検討したり、夜間はおむつに変更し利用者がよく眠れるようになった事例もある。ホットタオルを常備し、清潔保持にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	館外の散歩やアクティビティへの参加など適度な運動を行っている。また、季節に応じ水分補給にかき氷やアクエリアスなどを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は2日に1回の入浴予定だが、希望により毎日でも入浴したい場合は入浴、清拭等対応している。更衣などを随時声かけしている。バイタル測定時に希望を聞き取り対応している。	入浴は週3回を基本とし、希望があれば毎日の入浴も可能である。浴室、脱衣所に暖房設備を備えている。菖蒲湯や庭の柚子を使った柚子湯で、リラクセスしたり、職員との会話が弾む時間となっている。介護度の高い利用者も浴槽に浸かることができるよう支援し、皮膚の弱い人にも対応している。同性介助の希望も応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを基本に状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的や用法を把握し変更があった際には副作用にも十分気をつけ、症状の変化があれば主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人一人の生活歴や心身の状態に応じて、食器洗い、洗濯物畳み、洗濯物干しをして頂いている。また、会話の中から趣味や嗜好を見つけ楽しく生活できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時に対応している。正月などの行事は、家族の協力のもと、外出や外泊の支援を行っている。	日常的には、事業所の周囲を散歩する他、裏庭で桜を鑑賞したり、鯉の餌やりも楽しんでいる。正月は神社への初詣、1泊の外泊もある。春はツツジ、秋は弁当持参で紅葉見物のドライブに出掛けている他、今年度、外食を再開している。敬老の日には、近隣の高齢者施設との合同のイベントに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し対応している。利用者の買い物代行の際にはご本人様に欲しい物を聞いて、購入後は現物とレシートの確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も自由、希望時は代筆も行っている。遠方の家族には、写真などを添付してラインなどで近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように、季節の花や制作物を飾り、明るく家庭的な空間を出すよう心がけている。	玄関の生花や坪庭の木々で四季を感じることができる。夏には、利用者が作った七夕飾りで季節感を採り入れたり、リビングでは、将棋やカラオケ、運動会も実施して楽しく過ごしている。夜勤者が掃除機、モップで掃除し、朝は窓を開け自然換気を行っている。廊下の壁紙を改装しカーテンを新調する等、常に快適な環境となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室で、一人の空間が保たれている。また、共同の空間でも他者とのコミュニケーションが取れる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使用していた家具や生活用品の持ち込みをして頂き、居心地よく過ごせる居場所づくりを心掛けている。	全室にトイレと洗面台を設置し、尊厳に配慮した居室である。家具やテーブル、テレビ等の馴染みの物を持ち込み配している。家族からの誕生祝いのアレンジ花を飾ったり、テーブルで職員に手紙を書いたり、愛読書や新聞購読等、本人が自由に時間を過ごしている。毎日職員による清掃で、寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策を十分行い、自立して生活が送れるような工夫をしている。介護ロボットの導入によりコール対応なども迅速に対応できる。		